

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (議 員 用)

報告者： 谷口 隆明

実施場所：高梁市川上町学習センター及びラ・フォーレ吹屋	実施日：平成 30 年 12 月 1 日～2 日
<p>■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>『中山間地域の諸課題解決セミナー』に参加して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムを内包したコンパクトなまちづくり～川上診療所を中心とした医療と介護の連携や在宅看護などについて学ぶため。 ・「中山間地における地域医療の未来」について、川上診療所長、岡山県備北保健所所長、厚生省より派遣された高梁市政策監の三者のパネルディスカッションに学ぶため。 	
<p>■ 参考とすべき事項</p> <p>(1) 中山間地で住民生活を支えるためには、医療・福祉サービスを中心に据えなければならない。「地域包括ケアシステム」と「コンパクトタウン」を一体化した川上方式。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの中心に医療、介護、住まいの複合施設 ・診療所が高度な「総合診療医」として機能。ガンなどの診断までは行う。 ・在宅医療と医療の御用聞き。 ・お金はかけずに独居、高齢者世帯の支援体制 <p>(2) 在宅医療で人権としての緩和ケアの実践。ガン患者、非ガン患者の在宅緩和ケアで、自宅か地域での看取りが 77%（2007 年 7 月～2017 年 9 月で、がん患者 92 人中 70 人）。在宅医療連携の確立（看護師を中心とした在宅医療コーディネーターの配置）。</p> <p>(3) 診療所 2 階のものの病床を高齢者住宅「かわせみ」に転換。地域住民による NPO が運営し、国民年金だけでも利用できるように工夫。隣接する老健施設の給食の利用やボランティアの協力など。</p> <p>(4) 人々のこころを幸福にする、医療福祉の視点からの「まちづくり」の実践。</p> <p>(5) 介護老人保健施設「ひだまり苑」との連携。診療所・老健施設は、岡山県下に展開する社会福祉法人旭川荘の存在。指定管理料ゼロで運営。</p>	
<p>■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>(1) 医療介護をまちづくりの中心におくという視点。そのために、庄原市の現状認識、現状把握をみんなの共通認識とする努力が必要。</p> <p>(2) 市民病院の空きスペースの有効利用、各地の診療所と介護施設を地域づくりの中心に据える視点から、成果と課題をしっかりと話し合うこと。</p> <p>(3) どこに住んでいても安心して暮らせる在宅医療・看護、在宅看取りの精神（「時々病院、時々施設」で、できるだけ在宅を支える）に学び具体化すること。</p> <p>(4) 高梁市では、医療機関と患者の信頼関係（リスペクトする関係）や意識のギャップを埋める努力をされているが、学ぶべき視点だと思った。職員スタッフがキラキラして働いていると評価されるような環境が一番だと思う。</p>	